

救急看護論	2年・前期	1単位15時間	教授 片貝智恵 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310712

1. 授業のねらい・概要

学生が救急看護を修得するために、救急医療および看護に必要な基礎的事項を理解すると共に、救急看護に必要な知識、技術を実施することを目的とする。

学生は救急患者およびその家族への心理的ケアを理解する。

2. 学修の到達目標

1. 救急看護の特徴と役割を述べることができる。(D-2)
2. 救急患者の特徴、緊急度と重症度を述べるができる。(D-2)
3. 救急患者への初期の観察方法を述べるができる。(D-2)
4. 救急患者および救急患者家族の心理的特徴を述べるができる。(D-2)
5. 救急患者および救急患者家族の心理的援助を述べるができる。(D-2)
6. ショックとショック時の対応を述べるができる。(D-2)
7. 一次救命処置を主導的に実施できる。(D-2)
8. 三角巾を使用した救急法を実施できる。(D-2)

3. 授業の進め方

テキストに基づくワークシートを用いた講義と実技演習を中心に授業を進める。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、反転授業、ロールプレイを用いる。

【ICT活用の有無】

ICTは活用しない。

4. 授業計画（講義・演習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	救急看護の特徴と役割	講義	予習：救急看護の特徴を調べまとめる。 復習：救急看護の役割をまとめる。	片貝智恵
2	救急患者の特徴と初期の観察方法 緊急度と重症度	講義	予習：救急患者の特徴を調べまとめる。 復習：救急患者への初期の観察方法をまとめる。	片貝
3	救急患者および救急患者家族の心理的特徴と援助	講義	予習：救急患者および救急患者家族の心理的特徴を調べまとめる。 復習：救急患者および救急患者家族の心理的援助をまとめる。	片貝
4	ショックとショック時の対応 一次救命処置と二次救命処置	講義	予習：4つのショックについて調べまとめる。 復習：一次救命処置と二次救命処置の違いをまとめる。	片貝
5	一次救命処置（反転授業、ロールプレイ）	演習	予習：一次救命処置を動画で確認する。 復習：一次救命処置の手順を調べまとめる。	片貝，本吉美也子
6	救急法（ロールプレイ）	演習	予習：三角巾による救急法を調べまとめる。 復習：三角巾の取り扱いを練習する。	片貝，本吉

7	一次救命処置実技試験 救急患者家族の援助	演習 試験	予習：一次救命処置と AED の取り扱いを練習しておく。 復習：三角巾を使用した救急法を練習する。	片貝，本吉
8	救急法実技試験 筆記試験	試験	予習：一次救命処置と AED の取り扱いを練習しておく。 復習：試験で自信のなかった部分を復習する。	片貝，本吉

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上出席した者）90%，課題レポート10%，平常点で総合的に評価する。

定期試験は，筆記試験50%，実技試験40%とする。

成績評価は，「2.学修の到達目標」に示した評価観点ごとに，ルーブリック評価とする。尚，ルーブリック評価に関する詳細は，第1回講義内で説明する。

課題レポートの配点内訳は，課題①救急患者家族の援助（10%）とし，詳細（内容，締め切り日時，提出場所など）は，講義内で資料を提示する。

定期試験の出題範囲および出題方法等は，事前に口頭で提示する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：山勢博彰他（2024） 系統看護学講座別巻 救急看護学 医学書院

参考文献：随時紹介する。

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

授業計画の1回の授業範囲および事前事後学修（学修課題）について，最低90分の予習および最低90分の復習を行うこと。

8. 受講上の留意事項

災害看護実習の先修科目である。

主体的，意欲的な受講態度が重要である。

授業中の私語や授業に関連しない行動は，平常点として評価対象とする。

授業時間開始後に，教室の入室および退出を無断で行うことは慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

筆記試験終了後，口頭，掲示またはメールで説明する。

実技試験終了後，口頭で講評を行う。

講義時間以外に，随時，メールで問い合わせを受け付ける。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

医療機関等における看護師としての実務経験を活かして，講義・演習を行う。